

令和3年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展 結果

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、会場での市内科学作品展を開催することはできませんでしたが、流山市ホームページ上で、市内各学校から選ばれた406点もの科学作品を掲載しました。

その中でも特に優秀であった作品を、千葉県児童生徒・教職員科学作品展に出品しました。受賞作品は右記のとおりです。おめでとうございます。



科学作品展審査会の様子

Table with 6 columns: 部門, 賞, 作品名, 学校名, 学年, 氏名. Lists award winners for science projects.

令和3年度 葛北支会中学校英語発表会の開催について

9月14日(火)に、葛北支会(流山市・野田市)中学校英語発表会が行われました。今年度は、新型コロナウイルス対策のため、規模を縮小しての開催となりました。



結果として、本市より出場した常盤松中学校の輪島サマンサさんが第1位となり、葛北地区の代表として県大会に出場しました。

Table with 4 columns: 部門, 学校名, 氏名, タイトル. Lists winners of the English presentation competition.

第21回東日本学校吹奏楽大会に市内中学校2校が出場

北部中学校と東部中学校の吹奏楽部が、10月9日(土)に札幌コンサートホールKitara大ホールで開催された、第21回東日本学校吹奏楽大会に出場するためには、千葉県大会、東関東大会において、それぞれ金賞を受賞し、さらに地区代表に選出されるという厳しい関門を突破しなければなりません。



東部中学校



北部中学校

北部中学校 日本管楽合奏コンテスト全国大会

北部中学校吹奏楽部は、令和3年11月13日(土)に行われた、第27回日本管楽合奏コンテスト全国大会中学校A部門に、事前に収録した演奏をオンラインで配信されるという方法で参加しました。



学校での芸術鑑賞会について

流山市では、学校での芸術鑑賞会にてプロの芸術家による演劇や演奏の鑑賞など日常では体験できない本物の芸術にふれる活動を推進しています。



泣いた赤おに



走れメロス

第60回 全日本学校歯科保健優良校表彰

八木北小学校 日本歯科医師会会長賞
西初石中学校 奨励賞

本年度の「千葉県学校歯科保健優良校表彰」において、八木北小学校と西初石中学校がともに最優秀賞を受賞しました。

八木北小学校では、給食の時間に、「よくかむ日」のメニューを取り入れたり、「かみかみソング」を流したりしています。

西初石中学校では、保健委員会が中心となり、クラス対抗で歯みがきをした人数を競う「歯磨き選手権」を実施しました。



教育な が れ や ま

第82号
編集発行 流山市教育委員会
TEL 04(7158)1111

自分自身の成長とは



流山市教育委員会教育長 田中 弘美

東京2020パラリンピック大会 100mバタフライに出場した木村 敬一選手は、先天性の疾患による網膜剥離で2歳の時に視力を失いましたが、常に前向きに物事を捉え水泳競技に取り組んできました。

5年前のリオパラリンピックでは銀メダルを見事獲得しましたが、目標の金メダルには届かず、大会終了後には、気持ちが切れ、勝負の場所から逃げたいと考えたこともあったそうです。

その後、一人でアメリカへ渡り、水泳の練習と英語習得のため語学学校に通い、点字による参考書を活用し、英語をマスターしたとのこと。

アメリカでの生活を通して、競技がうまくいかなくても、日常生活が充実すればプラスになることも増えたと感じ、日々の生活で小さな自信が積み重なっていくことで、水泳への思いにも変化が生まれ、自分の成長につながったと聞いております。

「好きこそ物の上手なれ」という、ことわざがあります。

これは言うまでもなく、好きでやっていることは一生懸命になれるし、そのことについて勉強したり、工夫したりするので自然に上達するということです。

あるデザイン学校の入学募集キャッチコピーに「好き」を「スキル」に変える。「好きなことで輝くということ」「自分らしくあり続けるという道」という言葉が掲載されていました。

この言葉通り、好きなことには熱中できるので、それがスキルアップにもつながる可能性が大きいと解釈しました。

ひとつでも夢中になれることがあれば、それが自信につながり、自己有用感を得ることが出来ます。

2学期もコロナウイルス感染症拡大の影響は、教育活動をはじめ子どもたちにも大きな影響をもたらしました。様々な制約、我慢を強いられ、今までと同じことが出来ないもどかしさから自信を失うことも多々あったことと推察します。

そのような状況の中でも、各学校においては、形を変え、工夫し教育活動の継続を図り、運動会や体育祭、文化的な発表会等の取り組みを通して、子どもたちを主役にして計画、運営、実践していく姿を見ることが出来ました。

これからも各学校では特色ある教育活動を通して、子どもたち一人ひとりが自分に自信を持ち、夢中になれるような魅力ある授業、そして、体験活動が継続的に出来るよう努めてまいります。

保護者の皆様、地域の皆様には、引き続き温かな言葉かけと見守りをお願いいたします。

小学6年生・中学3年生対象 全国学力・学習状況調査（国語、算数・数学）の結果

＜小中学校ともに、全国・県平均を全て上回る＞

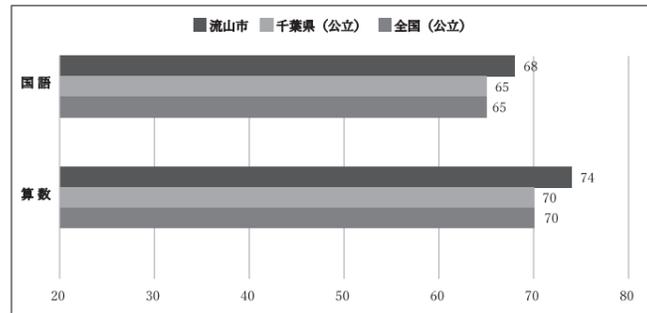
新型コロナウイルス感染拡大の影響で全国学力・学習状況調査が2年ぶりの実施となりました。

国語では、すべての領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(中学校)」）において、小中学校とも、全国・県平均を上回りました。

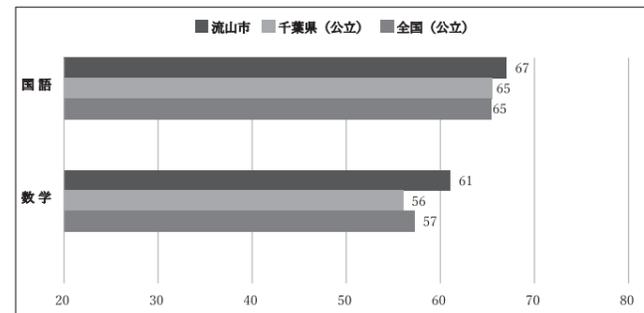
算数・数学でも、すべての領域（算数：「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」、(数学：「数と式」「図形」「関数」「資料の活用)」）において、小中学校とも全国・県平均を上回りました。

下記の表の通り、最近の5年間の調査でも、常に全国・千葉県平均を上回っており、小・中学生の学力が、高いレベルで安定していることがわかります。

▼令和3年度 小学校国語・算数 平均正答率(%)



▼令和3年度 中学校国語・数学 平均正答率(%)



小学校平均正答率推移(5年間)

小学校	H28	H29	H30	R1	R3
全国(公立)	64	64	60	65	68
千葉県(公立)	63	64	59	65	68
流山市教育委員会	65	66	63	69	71

中学校平均正答率推移(5年間)

中学校	H28	H29	H30	R1	R3
全国(公立)	62	66	63	63	61
千葉県(公立)	62	65	62	62	61
流山市教育委員会	65	68	66	65	64

＜学習・生活習慣に関する回答状況より＞

教科の調査と同時に行われた学習・生活習慣に関する質問における学習につながる回答では、流山市では小・中学校ともに、

「普段、1日に2時間以上勉強している」(小・流山 31.7%, 県 26.7%, 国 26.9% 中・流山 49.9%, 県 46.3%, 国 41.8%)

「普段、30分以上読書している」(小・流山 41.6%, 県 38.6%, 国 37.4% 中・流山 30.5%, 県 30.5%, 国 28.9%)

と回答した児童生徒の割合が、全国・県平均より高くなっています。

学校図書館司書による読書活動の推進や流山市教育委員会主催による「R1読書グランプリ」の実施など、読書をする習慣が、子どもたちの高い学力レベルを支える一因であると考えられます。

＜今後の取り組み＞

流山市では、子どもたちが「できた！わかった！」と実感できる授業づくりを目指し、基礎基本の徹底と学習内容の確実な定着を図っています。また、学びの土台づくりとして、読書活動の推進や学校サポート教員（算数・数学学習指導員等）の配置により、きめ細かな指導を行ってきました。このような取り組みが、学習における成果につながっているものととらえます。今回の学力・学習状況調査については、各学校においても調査結果を分析し、授業改善、学習指導に生かしています。

これからも、言語活動の一層の充実を図るとともに、1人1台端末などのICT機器を活用し、情報活用能力の育成に努めていきます。また、主体的・対話的で深い学びの実現のため、学習形態や方法を工夫した学習を実施し、学びに向かう力と自立する子どもを育む流山の教育を推進するとともに、感染対策に留意しながら、子どもたちの心に寄り添い、社会の変化に対応した教育の推進に努めてまいります。今後とも、保護者の皆様や地域の皆様のご理解、ご支援をお願いいたします。

「ぼく・私が考える平和」～タブレット端末を活用した平和教育～

市内小学6年生を対象とした「タブレット端末を活用した平和教育」を夏季休業中に行いました。平和に関する動画を視聴し、今年度から児童生徒に1台ずつ配付されたタブレット端末を用いて「ぼく・私が考える平和」という課題に取り組みました。タブレット端末を家庭に持ち帰り、家族と平和について語り合う時間を持つことで、平和についての考えを深めるきっかけとなりました。

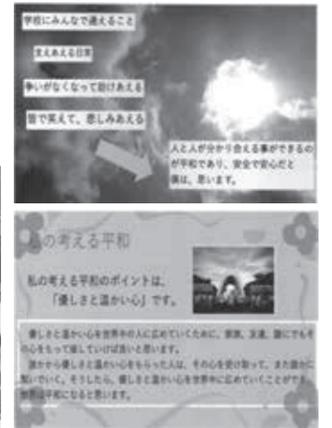
児童からは、平和教育をきっかけに、「平和とは、明日という日があること。明日を楽しみだと考えられること。」「平和の今は、当たり前ではないことがわかった。」といった感想が聞かれました。また、児童は、タブレット端末を活用して、自分の考えを様々な表現方法でまとめました。

家族や友だちと平和についての考えを交わすことができ、児童にとって有意義な時間となりました。



自分の考えを伝え合っている様子

児童がまとめた資料



タブレット端末を活用した学習

タブレット端末を活用した授業を開始してから9ヶ月が経ち、各学校ではタブレットを活用した学習が充実してきました。

例として、児童生徒は自分の意見をタブレット画面を通して先生に提出し、クラスみんなに共有したり、友達の意見を参考にしたりする学習が展開され、新たな学び方が可能となりました。

また、「デジタルドリルの学習が楽しい」という声をたくさん聞いており、児童生徒一人ひとりの個に応じた学習および学習意欲の向上にタブレット端末は有効だと改めて感じています。

今後も、児童生徒のタブレット端末を活用しながら情報活用能力の育成を図ると共に、情報モラル教育も推進してまいります。



【つながりのある教育の推進】保幼小関連教育研究会

流山市では、幼児期の教育から小学校教育へ円滑に移行できるようにするための「接続期のカリキュラム」の作成にむけて研究を進めています。

7月27日(火)に生涯学習センター多目的ホールにて、市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小学校の保育士及び教員が参加し、保幼小関連教育研究会が行われました。

今回は、「幼児教育を小学校につなぐ～図画工作の基盤をはぐくむ遊びとしての造形体験について～」をテーマに、淑徳大学総合福祉学部 教授 榎 英子 先生を講師にお迎えして研修を行いました。



榎先生からは、「幼児期の「造形表現」が、どのように小学校の「図画工作」につながるのか」ということについて、具体的な事例を交えて講話いただきました。また、参加者自身が、紙テープやひも、アルミホイルなど身近な素材を使って作品を制作し、実際に体験することを通して、幼児教育における「造形表現」と小学校教育における「図画工作」のつながりを学びました。接続期のカリキュラムについて理解を深める充実した研修会となりました。



コミュニティ・スクールについて

今年度から、学校と地域住民が力を合わせて学校運営に取り組む、コミュニティ・スクールの導入が始まりました。コミュニティ・スクールは、学校と保護者、地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える仕組みです。



10月14日(木)には、北部中学校で、北部中学校区(北部中・新川小・江戸川台小)の第1回学校運営協議会が開催されました。今年度は東深井中学校区でもコミュニティ・スクールの導入予定です。

市内各学校 女子トイレについて

市内各学校の女子トイレに、生理用品を配架しています。急に必要になったときや、家から持ってこられなかったときに役立てられています。

